

桜蔭俳話会

第一一四回通信句会 選句結果

平成二十六年夏。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の句の内数です)

1点①原爆忌年々思ひ新なり 幸枝

5点①一穴の蟻の迷宮蟻の尻 守

4点②食細き母と分けあう鰻井 邦子

1点 初夏の朝再詠の本決まりけり 秀一

2点 父の日や寡黙努力家吾は似ず 友子

温度計睨み絵団扇ひとしきり 明美

校庭の祭りに集ふ同窓会 ツル子

6点②雲の影お花畑を走りゆく 弘子

3点①滴りや山肌に立つ五大堂 幸子

3点 炎天に坐す御仏の歴史鏝 梅乃

小向日葵プランターにて咲き競い 忠夫

5点②千仏の黙みちてをり夏御堂 のり子

1点①天一閃はたはた神の置き土産 則子

2点①たどりゆく紫陽花の果て海真青 安紀子

初蝉の音のしつかりと聞えたり 眞三

蝉時雨大コンサートやつて来た 直子

1点 七夕に願いを一葉飾りけり 眞壽

3点②起きあがりこぼし転がし猫昼寝 幸

1点 目高生れ無数の命動きけり ヤエ子

しみわたる弦の音色や聖五月 安紀子

2点 蝉の声雨の上がるを待ちきれず 友子

5点①けだるさの一と日始まる猛暑かな 梅乃

6点②足指のサンダルの跡夜の秋 秀一

夏の日にそびえる雄姿富士の山 眞壽

1点 ふるさとの瀬戸風鈴の風を聞く 弘子

2点①雷光や負けるが勝のけんかして 幸

2点 語らひてみちのくの宿明易し 幸子

2点①この山道いつも鳴いてる時鳥 直子

4点①お握りを一、二、と開き夏の雲 ツル子

街広し顔を抜けゆく夏の風 眞三

ヨット来る波の真下を離岸流 明美

1点 大西日大医となりぬ道に有り 則子

2点 蝉の声さえ囁れたる昼下がり 幸枝

2点 あをによし奈良を埋めたる若葉かな のり子

11点⑤生きてゐるものに影あり原爆忌 守

今朝咲きしくちなし午後はもうしぼみ 忠夫

2点 泳ぎより帰りて意欲溢れをり ヤエ子

1点 背に流る汗も意にせず踊りかな 邦子

1点 外濠を埋めつくしたり古代蓮 安紀子

3点 へちま蔓のび放題にゆらぎけり 幸枝

1点 マーガレット海のほとりの白き駅 明美

3点 夏祭り一張り灯す道標 眞壽

1点 ひまわりの迷路めぐりて声はずむ 忠夫

若楓どつしりするを見上げたる 眞三

5点 笹舟のはや点と化す晩夏光 秀一

3点①炎昼や抜かれる草と残る草 ヤエ子

4点②目ん玉の八つの視線西瓜割る 梅乃

2点 風鈴の通ふ夢路や昼下がり 邦子

2点 夏霧の濃し山路いよいよ狭し 幸子

2点 川床の支度ゆるゆる昼下がり のり子

大量の蝉のぬけ殻逞しい 直子

4点 爪切りし後の老母の藍浴衣 友子

琵琶湖より大社の迎える遠花火 則子

1点 齒科医院出てより涼し家路かな 弘子

7点 再会の校舎の匂ひ大夕立 守

1点 蝸の遠慮もなしに甲高く ツル子

1点 夜を通し介護に明けり若葉風 清子

8点 今はなき書店の看板夏の果 清子

5点 ゆつたりと雷雨の中の百日紅 清子

【事務局からお知らせ】

○九月句会

・日時 九月二十八日(日)午後一時

・会場 旭区民文化センター・サンハート

(相鉄線・二俣川駅ライブ五階)

○十月句会(吟行します)

・日時 十月十八日(土)

・場所 山下公園、横浜大棧橋、象の鼻付近

・句会会場 横浜開港記念会館会議室